

自ら学び続ける子どもを育てる授業づくり

(3年次／3年計画)



主題設定の理由

本校の現状から

児童生徒の所属意識や仲間意識の高まりやすさ

児童生徒の関わり合いや学び合いへの期待

学習のねらいの整理と児童生徒の学びの充実につながる授業づくりの必要性

これまでの研究から

教育的ニーズに応じた授業づくりの実現

成果となった取組を継続していくシステムづくりの必要性

学部間の系統的な学習の積み重ねと社会とのつながりを意識した学習活動の検討に課題

社会的背景から

中央教育審議会「令和の日本型学校教育の構築を目指して(答申)」に示された育むべき資質・能力

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善へ

1年次の成果と課題

成果

教育課程を支えるマネジメントサイクルの構築

各学年の目指す姿や各教科等で学ぶ内容や育成される資質・能力を、共有・改善・評価する学年会を定期的に実施

学部間・学年間の「目指す姿」のつながりの明確化

学校教育目標に沿った「各学年で目指す姿」を基に、キャリア教育の視点で学部間のつながりを確認

自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりのポイント

各学部の実践で、個別最適な学びと協働的な学びを意識した単元計画や学習活動の工夫、実態に応じた支援の工夫を考え、授業づくりに反映

課題

「自ら学び続ける子ども」の具体的な姿とは？

教師同士が互いに学び合える授業研究を！

2年次の研究内容及び成果と課題

内容

「自ら学び続ける子ども」と、授業における児童生徒のねらいとのつながりの明確化

「自ら学び続ける子ども」とは

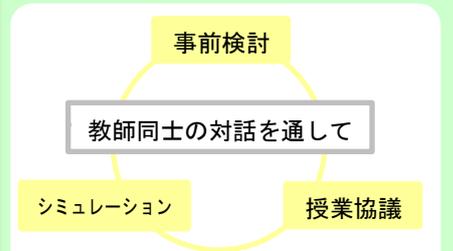
- ・主体的に物事と関わり続けようとする子ども
- ・問題解決に向かって自ら考えたり、行動したりする子ども
- ・多様な他者と関わりながら、自分の考えや他者の考えに気付き、自分の考えを再構成していく子ども

自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりのポイントの活用

「自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりのポイント」

- ・児童生徒一人一人が自ら活動したり考えたりすることができる状況づくり
- ・自然な協働性を生むテーマ設定や学習活動、学習集団の工夫
- ・多様な場や人材の活用

児童生徒の姿を基に、教師同士の対話を通して学びを丁寧に見取る評価の積み重ね



成果

対象生徒の学びを見取る姿勢の高まり

児童生徒の期待する姿に対する手立てが精選

児童生徒の自ら学びに向かう姿、主体性の高まり

課題

自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりの継続を！

教師同士の対話の充実を図り、授業改善へ！

自ら学び続ける子どもの育成

キャリア教育の視点に立った系統的で発展的な
学びの積み重ね

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な
充実を図った授業づくり

研究の実際

各学部の課題に基づいた授業実践の充実

① 各学部で目指す「自ら学び続ける子どもの姿」

小学部

「やりたい」「できた」「もっとやってみよう」と児童が感じ、自ら取り組もうとする姿を目指して

中学部

生徒が学びを実感し、自ら考えたり、行動したりする姿を目指して

高等部普通科

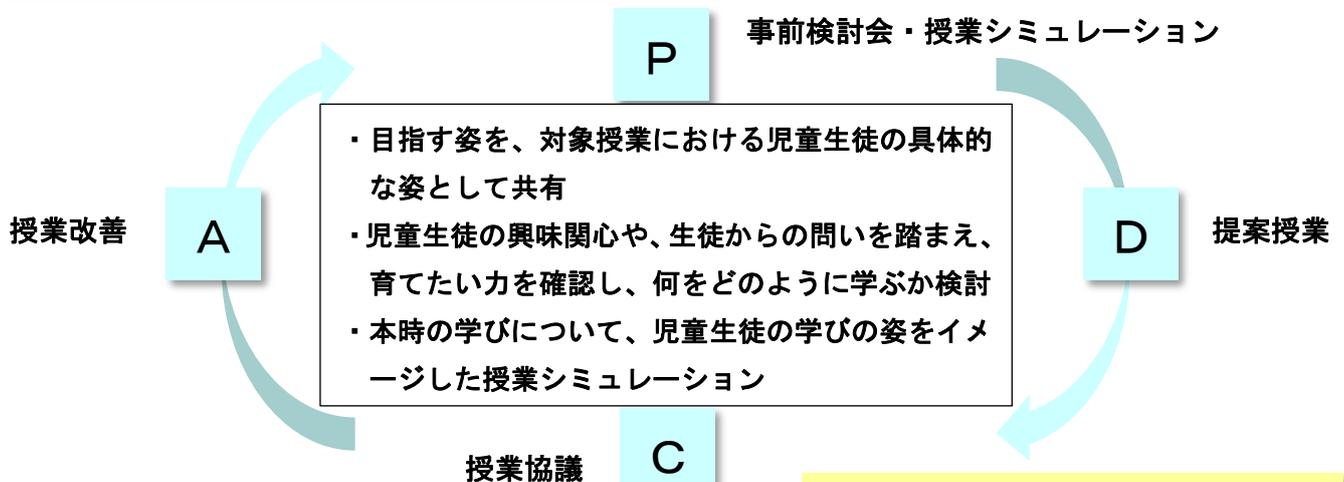
互いに学び合い、自分や他者の考えに気づき、行動する姿を目指して

高等部総合サービス科

生徒が自ら気づき、考え、学びを表現する姿を目指して



② 児童生徒の学びの過程を大切にした授業づくり



各学部で副題として設定した姿と、授業における児童生徒の学びの姿を具体的にイメージし授業づくりを行った。



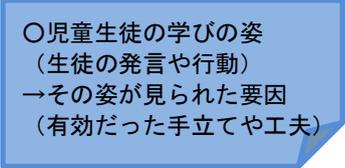
教師同士の対話の充実を図った授業改善

① 話し合う内容を細分化したスモールステップでの事前検討



② 自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりのポイントを活用した授業協議

授業づくりのポイントに沿って手立てを整理できる協議シートを準備

<p>ポイント① 児童生徒一人一人が自ら活動したり考えたりすることができる状況づくり</p> 	<p>ポイント② 自然な協働性を生むテーマ設定や学習活動、学習集団の工夫</p> <p>○児童生徒の学びの姿 (生徒の発言や行動) →その姿が見られた要因 (有効だった手立てや工夫)</p> 	<p>ポイント③ 多様な場や人材の活用</p> 	<p>話題にしたい場面 気になった場面</p> 
<p>「○○な姿」につながる次時に向けた改善</p>			

授業の手立てがどのポイントから考えられたものなのか仕分けをし、授業改善につながる新たな手立ての視点に気付くようにした。

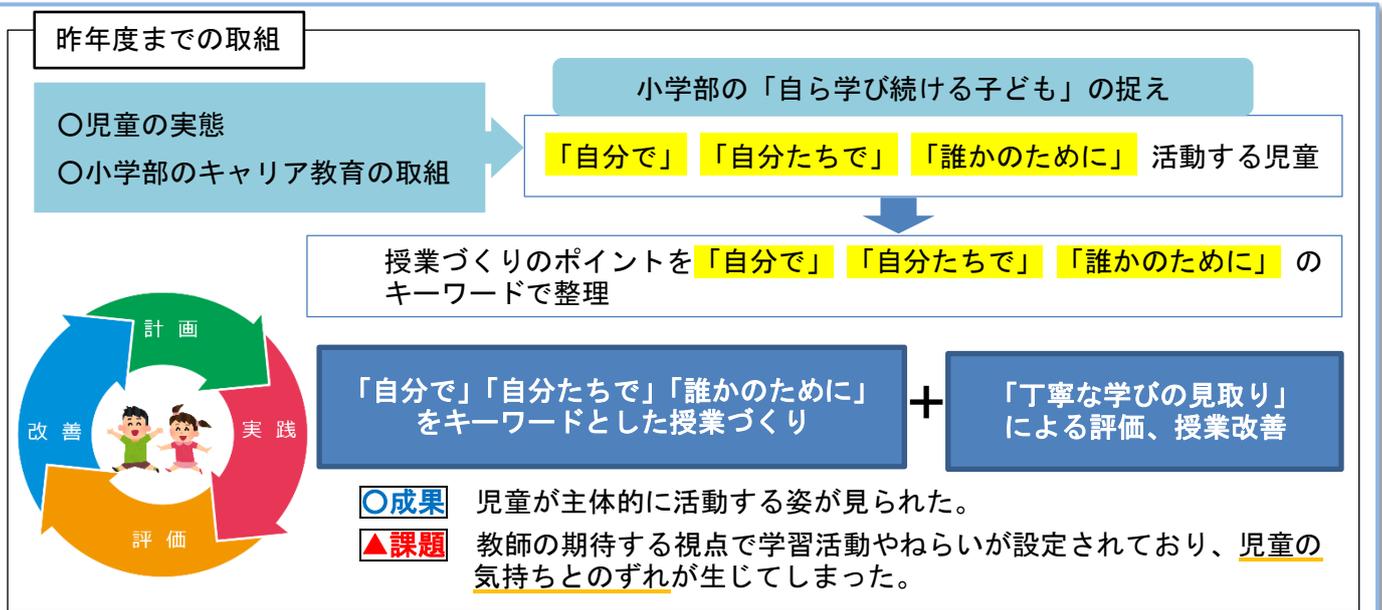
公開研究会 の開催



12月に公開研究会を開催した。提案授業の提示と授業協議の他にシンポジウムを行い、「自ら学び続ける子どもを育てる授業づくり」について、シンポジストの発表や参加者同士の意見交換を通して、考えを深める機会となった。

「やりたい」「できた」「もっとやってみよう」と児童が感じ、自ら取り組もうとする姿を目指して

学部研究テーマ設定理由



今年度の取組



学部の取組

「やりたい」「できた」「もっとやってみよう」と児童が感じ、自ら取り組もうとする姿を目指した授業実践の充実

教師が育てたいと考える力と児童の興味・関心をすり合わせた指導計画の立案

- ・「学年で育てたい力」の表を作成し、児童の興味・関心とすり合わせて、生活単元学習や遊びの指導の学習内容や計画を検討した。学年会の機会を活用し学年の教師全員で検討を行うことで、児童の目指す姿の共有と、指導内容や支援の方法について妥当性の向上を図った。

単元を見合う会の実施

- ・低学年、中学年、高学年のそれぞれの教師を縦割りにして小グループをつくり、年間指導計画を見合う会を行った。他学年の視点で単元について意見交換をした。

学部目標	6年 学年で育てたい力 (目指す姿)
基本的な生活習慣の定着や健康で安全に生活する力を育てる。	中学部に向けて、 体力をつける 気持ちの安定を図る 活動に自分から向かう ・日々のねらいを明確にする
自分の意思や考えを伝えようとする意欲及び技能を育て他の人と関わりながら活動する態度を養う。	他者意識を高める 困っていることを自分から伝える コミュニケーション能力を高める (身ぶり、発声、文字...) 話を聞くときのルール、約束
興味・関心及び見通しをもって夢中になって活動し、自分で考えて選択、実行する力を育てる。	人のために役立つ活動(そうじ、係、行事) くり返しの中で自分から動けるようになってほしい
指示待ち多い→自分から考えて動けるように話を聞くときのルール	

教師同士の対話の充実を図った授業改善

小学部3年 生活単元学習 単元名「ぐんぐんチャンネル ユーチューバーになろう①」

【主なねらいと学習活動】

動画づくりを活動の中心として、背景や小物作り、撮影などの活動を行う。自分がやりたい役割を選んだり、自分の気持ちを教師や友達に伝えたりすることや、活動内容を理解し、自分の役割に進んで取り組んだり、友達と協力して準備したりすることをねらいとした。

【事前授業検討】



- ・「できた」という達成感を児童が得ることができるよう、教師が求める児童の姿を明確にすることが大切。それにより手立ても具体化するのではないか。
- ・「よかった」「楽しかった」だけで終わらないように、評価の仕方を工夫したい。

協議から

- ・児童たちは活動に期待感をもって取り組んでいた。児童が自ら行動できるきっかけとなるような、児童の動きを引き出す教材があるとよい。
- ・児童の頑張るポイントを決め、達成したら「いいねシール」を貼るなど、「できた!」「やった!」の積み重ねが見えるような工夫があるとよい。

【授業協議】



助言から

- ・単元を通して児童のゴールが何になるのか、明確にしたい。
- ・自分たちで活動を楽しむ時間を十分に味わうことで、「他の人にも楽しんでもらいたい」という「誰かのために」の気持ちが生まれる。
- ・児童の思考を大切にゴールを設定し、単元を展開していくことが大切である。

【授業改善】

<活動への意欲付けや学習活動への見通し>

- ・学級外の人物からの依頼を受けて動画制作に取り組む。

<児童が自ら活動に向かうための手立て>

- ・分かりやすい場の設定、撮影する場面の絵コンテ、小道具の用意



【児童の変容】

<児童の実態>

- ・タブレット端末に関心が高い。友達と関わり遊ぶことが好き。
- ・初めての活動や自信のないことには消極的になる。提示授業の際は、参観者の姿に緊張し、黙ったまま動けなくなってしまう。



<児童の授業場面での変容>

- ・活動を繰り返し経験したことで、見通しと自信をもち、自分から進んで撮影役や準備、後片付けなどの活動に取り組んだ。
- ・自分たちで撮影した動画を振り返り、教師の問い掛けに「いいね」の合言葉と笑顔で応えた。

まとめ（成果とこれからに向けて）

三つのキーワードを基にした支援方法の整理

- ・各教師の児童の捉えや学びについての解釈を伝え合って検討でき、指導の妥当性が向上した。
- ・「授業づくりのポイント」は、教師が児童への支援の方法を共通理解するためのツールとして有効だった。
- ・経験を重ね人と関わる力が向上する高学年ほど、自ら取り組むための支援としてペアやグループの設定が重要になることが分かった。

児童が「できた」と達成感を感じられる工夫

- ・「もっとやりたい」と次へ向かおうとする児童の姿を引き出すためには、「できた」という達成感を十分に感じられる場面が必要であることが分かった。「児童が少し頑張ればできる活動」を設定し、「できた」の経験をたくさん積むことが重要である。
- ・教師が児童の目指す姿を具体的に想定し、評価の観点を明確にすることで、児童にとって分かりやすいゴールを設定でき、児童の「できた」の実感を積み重ねていくことができる。

生徒が学びを実感し、自ら考えたり、行動したりする姿を目指して

学部研究テーマ設定理由

【昨年度までの研究の取組】

生活単元学習の「進路学習」を研究対象に設定し、協働的な学びの充実を通して自ら学び続ける子どもの育成を目指してきた。

成果

- ・ 指導内容を整理したことで、既習事項を活用した学びの積み重ねができた。
- ・ 自分の考えを整理して他者に伝える姿が見られるようになってきた。



課題

- ・ 自信がもてず、活動に消極的な様子が見られた。
- ・ 自分の将来や、働くことそのものについて否定的に考える様子が見られた。

【今年度の研究】

生徒が自分の学びを実感し、少しずつ自信をもつことで、物事を前向きに捉えたり、意欲的に行動したりする姿を目指す。

研究対象：生活単元学習

学びを実感する姿

- ・ 「分かった」「できた」と感じる瞬間そのもの



- ・ 「分かるようになってきた自分」「できるようになってきた自分」に気付くこと



学部の取組

生徒が学びを実感し、自ら考えたり、行動したりする姿を目指した授業実践の充実

何をどのように学ぶかの検討

下記の二つの要素から今年度の生活単元学習のテーマと主な学習活動を検討した。

- ① 生徒の興味・関心や得意なこと、やってみたいこと
- ② 教師側が考える育てたい資質・能力

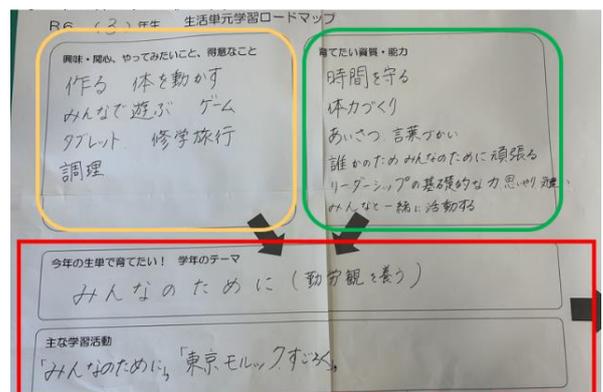
授業づくりのポイントを活用した授業づくり

ポイント①の「生徒一人一人が自ら活動したり考えたりすることができる状況づくり」の視点から、めあての具体的な文言や伝え方、個々のねらいに応じた学習活動の在り方等について検討した。

振り返りの充実を通じた授業づくり

生徒が学びを実感するためには、振り返りの充実が重要であると考え、次の3点について検討した。

- ① 振り返りの観点の明確化
- ② 自己評価と他者評価の機会の設定
- ③ 学びの履歴の残し方



教師同士の対話の充実を図った授業改善

中学部 2年 単元名「中学部 ハッピースマイル大作戦② ～おばけランドに招待しよう～」

【主なねらいと学習活動】

中学部3年生をおばけランドに招待し、楽しんでもらうために準備を進める。提示授業では、おばけ屋敷を改良するためのアイデアを出し合い、実際に試行錯誤しながら準備を進める。おばけ屋敷の企画や準備を通して、主体的に考えを伝え合い、協力して活動する姿を引き出すことをねらいとしている。

【事前授業検討】



- ・生徒の実態に応じて、選択することで自分の考えを伝えられるような教材・教具を準備しておく必要がある。
- ・より達成感を得られるように、改良後のおばけ屋敷を体験したゲスト（お客さん）の反応を写真や動画で提示してみるかどうか。

【授業協議】



協議から

- ・生徒の興味・関心に寄り添った単元設定、何を頑張るかが分かるめあて、試行錯誤できる環境設定等が有効であり、生徒が主体的に活動する姿が多く見られた。
- ・取組の様子の写真や自分の感想等を取り入れたワークシートを使って単元の振り返りをしてみてはどうか。

助言から

- ・教師が想定している学びの範囲の外にも、新たな気づきや発見を見い出しているかもしれないということを意識して授業実践を重ねてほしい。
- ・生徒が自分で実際に体験したり、感じたりする機会を通して自己の学びを振り返ることも大切である。

【授業改善】

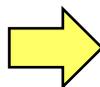
- ・自分たちで企画したおばけ屋敷を自分たちで体験する機会も設定する。
- ・単元の取組や制作した物の写真、自分の感想、教師からのコメント等を要素とした学習シートを用いて単元を振り返る。



【生徒の変容】

<生徒の実態>

- ・他者とのやりとりや言葉遣い、コミュニケーション面に関して課題のある生徒が多く、強い口調で話してしまうことがある。



<生徒の授業場面での変容>

- ・友達の提案や意見を受け入れられるようになってきた。
- ・生徒同士で相談して考えたり、協力して制作したりできるようになってきた。

まとめ（成果とこれからに向けて）

本時の学びを明確にし、生徒の学びを価値付ける意識

- ・単元目標、本時のめあて、生徒一人一人の「本時の学び」を順序立てて考え、「本時の学び」を実現するための学習活動を具体的に検討したことで、生徒が学びを実感する瞬間を多く引き出すことができた。
- ・「育てたい力」について教師間で共通理解する機会をもち、授業の中で見られたよい場面を価値付けて生徒に伝えることで、単元を通した生徒の成長が見られた。

学びの履歴の残し方と活用方法

- ・生徒が自分の頑張りの成長に気付くための手立てとして、写真や自分の感想、他者からの評価を学習シートに残す振り返りが有効であった。
- ・長期的な視点で学びを実感するためには、過去の自分と現在の自分を比較する視点も必要である。より有効な学びの履歴の残し方や活用方法について引き続き検討していく。

互いに学び合い、自分や他者の考えに気づき行動する姿を目指して

学科研究テーマ設定理由

<昨年度の研究から>

【取組】

「協働的な学び」の実現に向けた学習内容や時期を整理・検討

学年ごとに生活単元学習の中心単元検討の実施

生活単元学習の単元計画、学習内容の検討

【成果と課題】

- 学んだことを生かし、生徒が考えて活動する機会を設定できた。
- 友達と関わりながら活動しようとする姿が見られるようになってきた。
- △相手を意識した関わりをもっと増やしたい。
- △各学年の取組や成果などを共有する機会が不十分だった。

<生徒の実態から>

- ・見通しがもてると、積極的に活動に参加できる。
- ・初めての活動や苦手な活動に対して消極的である。
- ・関わり方に実態差があるが、仲間意識が高まってきている。

<目指す姿>

生徒が互いの考えに触れ、自分の考えや思いを広げることができるような学習活動や手立ての工夫の検討、実践、改善を通して、「互いに学び合い、自分や他者の考えに気づき行動する姿」を目指す。

学科の取組

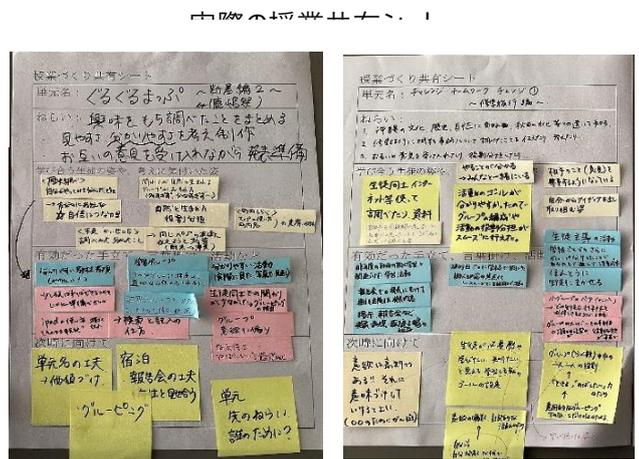
互いに学び合い、自分や他者の考えに気づき行動する姿を目指した授業実践の充実

学び合う姿・自分や他者の考えに気付く姿の明確化

学年毎に生徒一人一人について、学び合う姿、考えに気付く姿を具体化し、学科内で共有する。

学び合う姿、手立てなどの共有

授業づくり共有シートを活用しながら、生徒の姿について振り返り、有効だった手立てを学科内で共有する。



教師同士の対話の充実を図った授業改善

2年 単元名 ぐるぐるマップ⑧～私の将来編～

「後輩に『働くこと』の大切さ、楽しさを伝えよう」

【主なねらいと学習活動】

ねらい：働くことの大切さや楽しさを伝えるためにどのように工夫していけばよいのかを友達同士で話し合ったり、試みたりして互いに学び合い、他者の考えに気付き行動する姿を育てる。

学習活動：ジョブパークの準備、進行練習を行う。

【事前授業検討】



- ・ 分かりやすく伝える相手は誰なのか、生徒に明確に伝えた方がイメージしやすい。
- ・ 分かりやすさのポイントを具体的に提示することで、生徒自身が考えながら活動する姿につながるのではないかと。

協議から

<授業協議>

- ・ 生徒同士のやり取りの場面を設定するために活動の中で生徒の役割をもっと増やす。
- ・ 伝えたい気持ちや感動を生徒自身が実感できるような工夫をする。

助言から



- ・ 働くことの大切さ、楽しさについて全員で共通理解をして掲示物などで提示することで、生徒の学びに向かう意欲がさらに高まる。
- ・ めあてとめあてを達成するための手立てが繋がっているか確認することが大切である。

【授業改善】

- ・ 話し合いの中で役割分担を行い、協力して課題に取り組む場面設定をする。
- ・ 「分かりやすい」とはどういうことか、確認しながら進められるように、事前に自分たちで考えた評価の視点を提示し、チェックをする時間を設定する。



【生徒の変容】

<生徒の実態>

- ・ 経験不足から消極的な傾向がある。
- ・ 教師とのやりとりが多い。



<生徒の授業場面での変容>

- ・ 他のグループの様子を見て、生徒同士で意見交換をする様子が見られた。
- ・ 互いに教え合ったり、フォローし合ったりする場面が増えた。

まとめ(成果とこれからのに向けて)

生徒同士のやりとりを意識した学習活動の検討

○生徒の興味・関心を基にグルーピングすることで、生徒が同じ目的意識をもち、自発的なやりとりが増えた。

→やりとりの内容が深まるよう、自分の考えを伝えるための方法などを提示していく。

学習の目的の共有

○めあてを生徒から引き出し、学習の目的を共有したことで、活発に意見交換をする姿が多く見られた。
→目的がずれないように、活動中にめあてを確認したり、めあての中間評価の場面をまとめにつなげたりする。

自ら気づき、考え、学びを表現する姿を目指して

学科研究テーマ設定理由

＜昨年度の研究から＞ 自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりのポイントを活用した授業実践

成果

- 知識と技術を一体的に学ぶことができた
- 協働的な学習で新たな気づきや考えが生まれた
- 学びを実感し、自信をもって行動した

課題

- 生徒の目指す姿を学科内で具体的に共有したい
- 気づきや考えを生み出す工夫を継続したい
- アドバイザーや外部講師と積極的に連携したい

＜生徒の実態から＞

- ・全員が一般就労を希望し本学科に入学している。
- ・自分の考えや意見などがあるが、自信がもてず消極的になる生徒が多い。
- ・学んだことを他の場面で活用したり、応用したりする力に課題がある。



＜目指す姿＞

協働的な授業実践を積み重ね、新たな知識や技術を学び得る喜びや学習の成果を実感することを通して、「生徒が自ら気づき、考え、学びを表現する姿」を目指す。

学科の取組

自ら気づき、考え、学びを表現する姿を目指した授業実践の充実

研究対象授業を「流通・サービス」に設定し、以下の実践を重点に授業づくりを行った。

生徒の目指す姿の明確化



- ・抽出生徒の実態分析
- ・身に付けたい力の確認
- ・卒業後のイメージ像の共有

協働的な学習活動の充実



- ・異学年での学び合い
(先輩から後輩への指導)
- ・話し合い活動の積み重ね
- ・伝え方、聞き方の工夫

校内外の人材の活用

＜株式会社友愛ビルサービス社員との連携＞



- ・生徒への清掃指導の実施
- ・職員との意見交換
- ・授業研究会における助言
- ・進路講話の実施
(社会人として大切なこと)

＜教育専門監、自立活動アドバイザーとの連携＞



- ・事前授業検討会での助言
- ・教科指導の重点の確認
- ・障害特性についての助言
- ・指導案への助言
(目標や手立ての妥当性について中心に)

教師同士の対話の充実を図った授業改善

第1学年、第3学年 流通サービス 題材名「ビルクリーニング～ダストクロス作業、水拭きモップ作業～」

【主なねらいと学習活動】

本題材では、3年生が1年生にビルクリーニングの基礎を伝える学習活動を通して、清掃技術を高める他に、自分の行動に自信をもち、活動する姿を目指す。また、学校生活全般を通して互いのよさを認め合い、自分の思いや考えを相手に伝える姿を目指したい。そして卒業後、様々な活動に挑戦しようとする意欲や分からないことは自分から調べるなど、学び続ける社会人になることを期待し、本題材を設定した。

【事前授業検討】



- ・指導内容や指導範囲をさらに明確に確認することが必要ではないか。
- ・何のためにこの清掃を行うのか教師が生徒に問い掛けてはどうか。
- ・清掃技術を他の場面でどのように生かすことができるか考えてはどうか。

【授業協議】



協議から

- ・教師が生徒に要所で言葉掛けや発問をしていて効果的だった。
- ・「なぜ、何のために」清掃をしているか意識できるやりとりを大切にしたい。

助言から

- ・ビルクリーニングを通して、生徒たちの心技体を育ててほしい。
- ・協働的な学習場面は気付きや考えを生み出す手立てとして効果的だった。
- ・在学中に「自分に合う学び方」を見付け、さらに自己理解を深めてほしい。

【授業改善】

以下の3点を重点に授業改善を行った

【指導範囲の明確化】… 清掃工程を細分化し、学習内容を焦点化した。

【気付きを促す発問】… 「なぜ？」 「それはどうして？」と問い掛けた。

【次時へつながるまとめ】… 本時の学びをどこで生かすことができるか問い掛けた。



【生徒の変容】

<生徒の実態>

- ・意見や考えを伝えることに消極的である
- ・自分の行動に自信がもてないことが多い
- ・新しい知識や技術を習得する意欲がある
- ・繰り返しの活動や他者評価により自信がもてる



<生徒の授業場面での変容>

- ・3年生は言葉と動きを交え、清掃技術を具体的に1年生に伝える姿が見られた。
- ・1年生は質問やメモをするなど、知識と技術を習得するための行動が見られた。

まとめ（成果とこれらに向けて）

異学年で行う協働的な学習活動

協働的な学習活動は新たな気付きや考えを生み出す機会として有効だった。特に異学年でやりとりを行うことで、先輩は既習事項を改めて整理し振り返る機会となり、後輩は先輩の姿を目標に新たな知識や技術を積極的に吸収する姿へとつながった。協働的な学習は双方にとって深い学びにつながる取り組みであった。

専門性の向上と学び方への着目

協働的な学習活動の中で、生徒たちが自ら学ぶ姿が随所に見られた。教師は生徒の障害特性を正しく理解した上で、生徒が自分に合う学び方を見付けられるよう支援していく必要があると考える。また、学び方を知ることで生徒たちの自己理解がさらに深まると考える。今後も生徒たちの学び方に注目し、卒業後も自ら学び続けることができるよう、在学中から自分に合う学び方を見付ける支援ができるよう、専門性を高めていきたい。

寄宿舎

学んだことを自分の力として活用できる生徒の育成を目指した生活指導の実践 ～生徒同士の学び合いや体験的な活動を通して～

寄宿舎研究テーマ設定理由

<これまでの取組>

個別の生活指導計画

～基本の日常生活指導～

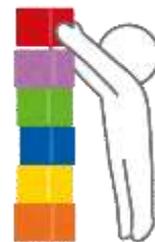
学習会

～知識の獲得・技術向上～

地域学習

～地域の特性を生かした学び～

洗濯に関わる一連の指導からその先の「身だしなみを整えること」へ



<成果と課題>

- 学習会などの場面で「教えられる立場」から「教える立場」へ
- 「クリーニング教室」で学んだことを家族のために活用
- ▲学んだことを言語化する機会の充実

寄宿舎の取組

生徒同士の学び合いを広げ、深める場面の設定

学習会（スタイリッシュゼミ、レディースデー）、合同学習会等



ひげそり後の確認の仕方を練習



男女合同学習会で宿直指導員から学ぶ



衣類整理の方法を上級生から学ぶ

実生活への結び付きを意識した、体験的な活動の拡充

地域学習（クリーニング教室）、卒業生と語る会等



専門家による靴下の下洗い実演



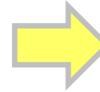
油汚れの落とし方実験



卒業生と語る会

より密な学部・保護者との連携

舎監・寄宿舎指導員からのメッセージ、指導ツールの作成等



付箋紙のメッセージは、掲示場所を各棟から共有場所へ変更し、要約したものを各家庭に配付

管理職の声を基に、「身だしなみ」に関するツールを作成・掲示をし、指導に活用

寄宿舎研究会を活用した指導の振り返り機会の設定

職員の指導と生徒の変容を捉えやすくする「生活記録」等

生徒名（ ○○ ○○ ）

個別の目標に関する今週の指導のポイント	
① 例) ワイシャツのアイロン掛けの仕方を覚える。	
② 例) 自室の掃除機掛けの仕方を覚える。	
.....	
月/日 (曜)	生活の様子 ※個別の目標記録は青丸を付ける
○/○ (火)	●登校前の身支度の際、二つに結んだ髪の高さがそろっているか、職員に確認を求める様子が見られた。

身だしなみに関すること

「個別の生活指導目標」に関する記録に青丸を付けることに加え、「身だしなみ」に関する記録には赤丸を付けることとし、振り返りに活用

<生徒の変容>

- ・職員から教わった生活技術を友達の方法と見比べ、自分に合ったものにアレンジする姿が見られた。
- ・クリーニング教室の内容を、生徒全員が取り組みやすい「靴下の下洗い」などにしたことが実体験となり、次の学びのきっかけや、気付きにつながった。
- ・先輩の卒業後の生活について知り、学んだことを自身の現場実習に生かそうとする姿が見られた。
- ・生徒一人ずつに準備したファイルが「自分一人に向けられたメッセージ」として特別感を生み、意欲が高まったり、自信をもったりする姿が見られた。

まとめ（成果とこれからに向けて）

生徒の関心や新たな気付きを取り入れた学習会や体験活動

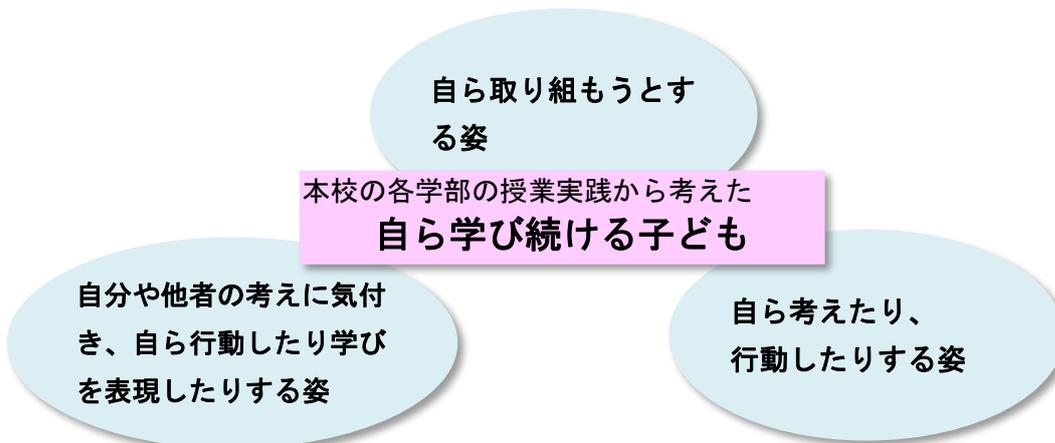
生徒が興味関心をもって学びたいと考えている内容や、生徒の気付きから発展させた学びの場を繰り返し設定していくことが、学んだことを自分の力として活用する姿につながった。

生徒の変容やタイミングを逃さない指導体制

生徒の実態や変容を捉える「生活記録」を活用した振り返りの機会を確保し、職員の連携、指導をつないでいくことが、生徒の学び続ける姿につながる。

まとめ

①「自ら学び続ける子ども」に向けた、各学部等の目指す姿のつながり



学部・学科で目指してきた姿が「自ら学び続ける子どもの姿」に向けた要素に

②自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりに必要な視点

自ら学び続ける子どもの姿を育てる授業づくりのポイント

児童生徒一人一人が自ら活動したり考えたりすることができる状況づくり

例) 既習事項の活用、教材教具の工夫、自分の意見を整理する手立て
ICTの活用、自分の役割の明確化など

自然な協働性を生むテーマ設定や学習活動、学習集団の工夫

例) 見通しのもてる活動、同じ目標をもつ生徒同士、多様な学習集団など

多様な場や人材の活用

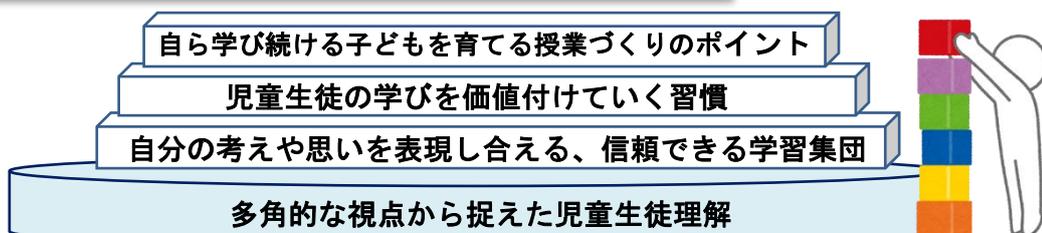
例) 他学部、他学年との関わり、校内の職員との関わり、専門家との交流
地域社会での体験など

個別最適な学び
と協働的な学び
の一体的な充実

チェック

- ・達成感を得られる活動か
- ・何のために、何を学ぶのかが明確になっているか

授業づくりのポイントを活用し授業づくりを進めていくために…



これからに向けて

多様な視点から捉えた児童生徒理解

手立ての意図を明らかにした授業づくり



令和6年度 研究報告

発行年月

令和7年3月発行

発行所

秋田県立栗田支援学校

〒010-1621 秋田市新屋栗田町 10-10

TEL 018-828-1162

018-888-8171 (第2校舎)

018-828-1170 (寄宿舍)

FAX 018-828-4720

ホームページ <http://www.kurita-s.akita-pref.ed.jp/>

メールアドレス kurita-s@akita-pref.ed.jp

